

今後のみどりのまちづくりについて

1. 前回の審議会の振り返り
2. 今回の論点
3. みどりのまちづくりを取り巻く社会情勢の変化

1. 前回の審議会の振り返り

【前回】令和3年3月 第5回みどりのまちづくり審議会

現行のみどりの基本計画の概要や最近の大阪市の取組みを報告後、今後のみどりのまちづくりについて幅広く議論した。

前回の審議会でいただいた主なご意見

- 人間が手を付けた自然は管理し続けなければならない。例えば、公園樹の安全対策でも樹木の具体的な管理の考え方で明記すべき（例：ドイツではQRコードを用いて樹木毎の管理履歴をデータベース化している）
- 公園管理には市民の存在が不可欠で、市民を巻き込むためのプロセスやプラットフォームが必要。魅力向上の取り組みにおいても、選考基準に管理プロセスと市民連携の関係に関する整理が必要。
- みどりは異常降雨に対して水を吸収できる場所、としての価値がある。世界の他都市では、熱環境の改善というよりは雨水流出を抑える趣旨で屋上緑化の取組みが進められている。

2. 今回の論点について

本日の論点

前回いただいた意見を踏まえながら、みどりのまちづくりを取り巻く社会情勢の変化を事務局から提示し、今後、特に重視すべき視点や方向性について議論を深める。

緑の基本計画改定に向け、本日いただいたご意見を踏まえながら、令和4年度には本市における今後の公園・緑化のあり方（方向性）を整理したい。

参考：新・大阪市緑の基本計画(H25)で示した今後の公園・緑化のあり方（方向性）

【あり方1】

みどりの既存ストックの活用と多様なみどりの確保による「みどりのベースアップ」
（“みどりの都市”への成長）

【あり方2】

都市の個性・イメージ・魅力の向上につながる「大都市ならではのみどりの創出」
（“みどりの都市”イメージの構築・発信）

【あり方3】

市民・事業者が主体的にみどりのまちづくりを担う受け皿や仕組みづくり、展開
（“みどりの都市”を実現する仕組み（受け皿）づくり）

3. みどりのまちづくりを取り巻く社会情勢の変化

- ① 少子化・高齢化に伴う人口構造の変化
- ② 地球環境に配慮した持続可能な社会形成の追求
- ③ 都市に暮らす人々を取り巻く環境の変化
- ④ 社会資本の一斉老朽化への対応
- ⑤ 異常気象に伴う自然災害の頻発化・激甚化
- ⑥ 技術開発の動向
- ⑦ 新しい開発インパクト

2. みどりのまちづくりを取り巻く社会情勢の変化

① 少子化・高齢化に伴う人口構造の変化

《動向》

- 常住人口の減少への移行、人口構成の変化（高齢化の進行、出生数の低迷など）
- 世帯構造の変化（少人数世帯の増加、子どもの減少）
- 行政区別の人口比率・世帯構成の変化

《社会変化》

- 健康寿命の増加、健康への関心の高まり
- 地域コミュニティのあり方の変化（地域社会活動等に参加する高齢者の減）
- コミュニティのあり方の変化
- 身近な生活サービス向上の希求

《みどりに求められる役割の変化》

- 健康寿命向上のための健康づくりの場としての役割重視（公園、緑道）
- 多様な主体の活動の場、緩やかな交流の場、サードプレイスの提供
（子育て世代、企業等とのつながり）
- 歩いて暮らせるまちづくりにおける役割の重視（身近な公園、座れる空間）

2. みどりのまちづくりを取り巻く社会情勢の変化

②地球環境に配慮した持続可能な社会形成の追求

≪動向≫

- 世界的な平均気温の上昇（温室効果ガス排出量の増加）
- ヒートアイランド現象の顕在化
- 生物多様性保全への警鐘

≪社会変化≫

- SDGsの考え方の波及、浸透
- カーボンニュートラルをめざした取組みの発展
- 生物多様性の維持、向上に向けた取組みの重視
- 日本における食料供給能力の危機
- 多様な主体、公民連携による社会づくり

≪みどりに求められる役割の変化≫

- 持続可能な社会を学ぶフィールドとしてのみどりの活用
- 食糧危機、生態系サービスにも応えるみどりの確保
（エディブルシティ、エディブルランドスケープの展開）
- 植物の持つ機能、存在効果を最大限に発揮（樹冠による温度低減効果等）

2. みどりのまちづくりを取り巻く社会情勢の変化

③都市に暮らす人々を取り巻く環境の変化

≪動向≫

- 市民のライフスタイルの多様化、ウィズコロナ・アフターコロナの社会形成への模索
- 都市部の人口流出
- 大阪市への来訪者の増加

≪社会変化≫

- 高まる都市間競争

≪みどりに求められる役割の変化≫

- シビックプライドを醸成し、人を引き付ける魅力となるみどりの重視
(ブランディング、観光資源、企業連携誘発、など)
- 公園緑地の新たな機能展開
(まちづくり拠点、健康づくり、密を避けるオープンスペース)

2. みどりのまちづくりを取り巻く社会情勢の変化

④ 社会資本の一斉老朽化への対応

《《動向》》

- 一斉に老朽化する公共建築物・都市インフラ施設
- 都市経営資源の制約の顕在化（財源や人材の不足）

《《社会変化》》

- インフラ施設の長寿命化の考え方の重視
- 公園のストック再編
- 多様な財源の確保
- 行政による社会実験実施の増加

《《みどりに求められる役割の変化》》

- 公園緑地施設の長寿命化、適切な維持管理
- 日常メンテナンスの重視
- 既存公園の再編、活性化の視点重視
- 公園整備および管理運営における社会・経済効果実証の重視

2. みどりのまちづくりを取り巻く社会情勢の変化

⑤異常気象に伴う自然災害の頻発化・激甚化

≪動向≫

- 局地的な大雨
- 強い勢力の台風による被害
- 大規模地震発生の予測

≪社会変化≫

- 社会全体として総合的かつ多層的な災害対策の取組みの必要性

≪みどりに求められる役割の変化≫

- グリーンインフラとしてのみどりの価値の見直し
- 公園等の災害時利用の多様化
(避難場所、仮設住宅、災害ごみ等の一時保管など)
- 自然災害の被害を最小限にする樹木の適正な維持管理

2. みどりのまちづくりを取り巻く社会情勢の変化

⑥ 技術開発の動向

≪動向≫

- ICTの急速な普及
- データを活用したまちづくりの拡大

≪社会変化≫

- Society5.0の推進
- ICT活用のお機曾増加

≪みどりに求められる役割の変化≫

- 新しい技術を活用したみどりの創造、
みどりを活かした技術開発、社会実験の展開

2. みどりのまちづくりを取り巻く社会情勢の変化

⑦新しい開発インパクト

《動向》

- 2025大阪・関西万博の開催を契機とした大阪の魅力発信
- うめきた2期地区開発プロジェクトの進展
- 新大阪駅周辺地域のまちづくりの基本方針
- 都市再生緊急整備地域における都市開発事業の進展、拡大

《社会変化》

- 都市の整備、再生のシンボルに公園を活用

《みどりに求められる役割の変化》

- 都市再生の起爆剤としてのみどりを軸としたまちづくり